

クワシロカイガラムシ（第3世代幼虫）の 防除対策について

令和6年9月6日
埼玉県茶業研究所

本年のクワシロカイガラムシ（以下「クワシロ」）第3世代ふ化幼虫の発生ピークは平年より早く（青梅、所沢アメダス）で、茶研周辺は9月中旬となる見込みです。

発生が多く認められる茶園では、下記の情報を参考に適切な時期に防除対策を実施しましょう。

防除適期の判断が難しい場合は、メール（難しい場合は電話、FAXで。文末に表記）でお気軽にご相談ください。

1 有効積算温度による推定

青梅アメダスと各地点の茶株内温度のデータから推定したクワシロの防除時期は以下のとおりです。

調査地点	防除適期 ()内は幼虫ふ化の推定ピーク
所沢市（林）	9月11日～14日 (9月11日)
入間市（野田）	9月16日～19日 (9月16日)
狭山市（笹井） 所沢市（東狭山ヶ丘） 入間市（茶研・上谷ヶ貫）	9月18日～9月22日 (9月18～19日)
入間市（上藤沢） 入間市（木蓮寺）	9月21日～25日 (9月21～22日)
青梅アメダスデータ	9月16日～19日 (9月16日)
所沢アメダスデータ	9月15日～18日 (9月15日)

2 防除時期のポイント

薬剤による防除適期はふ化幼虫の推定ピークの翌日から4日後程度が目安です。台風や降雨等により防除適期を逸することも考えられますが、発生が目立つ場合は、防除適期から数日遅れても防除の実施が大切です。

雄まゆ、雌成虫の介殻の発生が枝幹に散見される程度の発生であれば、今回の世代の防除を省略しても次世代の発生が少ないことが知られています（周辺からの侵入等の要因を除く）。埼玉県におけるクワシロの初発当初（2000年代初め）に頻発した茶園が枯れるような状況はあまり見られなくなりました（天敵昆虫やこややく病などの充実、茶園の耐性など）ので、毎回防除しなくてもよい可能性があります。参考にしてください。

3 防除対策のポイント

（1）3月にプルトMCを散布したほ場

- ・8月以降、雄まゆ、雌成虫の介殻が散見されるほ場では散布の効果が落ちていたり、周辺からの新たな侵入が考えられますので、防除対策を検討しましょう。

（2）プルトMCを散布していないほ場

- ・天敵に影響の少ないアプロードエースフロアブルまたはコルト顆粒水和剤を農薬使用基準に従って散布します。
- ・海外へ輸出を予定しているほ場及びその周辺以外の茶園では、カルホス乳剤の使用も効果的です。
- ・散布に当たっては茶株内の枝幹に十分に薬液がかかるよう丁寧に実施しましょう。
- ・ジノテフラン粒剤の土壌混和处理も可能です。摘採時期や同一成分の使用回数に注意しながら、各世代を対象として使用すると密度抑制効果が高まります。ただし、欧州方面への輸出予定している茶園およびその周辺では使用しないようにしましょう。
- ・適期より対策が遅れた場合は、薬剤散布直後、または単独で40kg/10a相当量の米ぬかやナタネ粕を茶株の枝幹に付着するように処理するとクワシロ抑制効果があります。マシン油乳剤の散布も適期を逃した場合の対策として実施可能です。

農薬を使用する際には、必ず使用農薬のラベルを確認しましょう

連絡先:埼玉県茶業研究所
農業革新支援担当 小俣
TEL: 04-2936-1351
FAX: 04-2936-2891
E-mail: omata.ryosuke@pref.saitama.lg.jp